

参考資料

(平成19年8月3日 第4回三番瀬評価委員会資料2 - 1、2 - 2、2 - 3)

平成18年度三番瀬自然環境調査について

平成19年8月3日
環境生活部自然保護課

1. 目的

本調査は三番瀬の干潟・浅海域の底生生物の生息状態、底質等の現況を把握し、平成8年から9年を中心に実施した補足調査および平成14年度に実施した調査と比較するなど、中長期の変動を把握する。

2. 調査内容

本調査の調査項目および調査地点数は表1、2のとおり。

表1 調査項目および調査地点数

調査項目	調査地点数	調査頻度等
底質調査	表層 100 地点	四季
	中層および下層 各 20 地点	
底生生物調査	表層 100 地点	四季
	中層および下層 各 20 地点	
干潟干出域力二類等生物 生息状況調査	22 地点	1 回 (平成18年 6月27日)

表2 調査実施日(底質調査、底生生物調査)

調査時期	調査日
春季調査	平成18年5月30日～6月4日
夏季調査	平成18年8月17日～22日
秋季調査	平成18年11月25日～30日
冬季調査	平成19年2月5日～10日

3. 調査結果等の概要

(1) 底質調査

中央粒径、シルト・粘土分、強熱減量、酸化還元電位について調査を行ったが、底質の状況は、沖合域では各項目とも過去の変動範囲内にあり、大きな変化は認められなかった。

浅海域は、江戸川河口から市川航路に沿った海域で、過去の調査の変動範囲を超えて中央粒径が小さくなり、シルト・粘土分の割合が高くなっている傾向がみられた。

また、塩浜護岸前面の漣筋の浅海域でも、過去の変動範囲を超えて中央粒径が小さくなり、酸化還元電位は低くなった。また、シルト・粘土分の割合および強熱減量は高い値を示した。

(2) 底生生物調査

底生生物の出現種類数は、過去の調査に比べて大きく変化していないが、出現個体数は補足調査に比べて少なく、2002年度調査と同じ程度であった。湿重量は、過去の調査では夏季に最も高い値を示していたのに対し、本年度は夏季におけるアサリの湿重量が少なく、秋季や冬季よりも低い値となった。

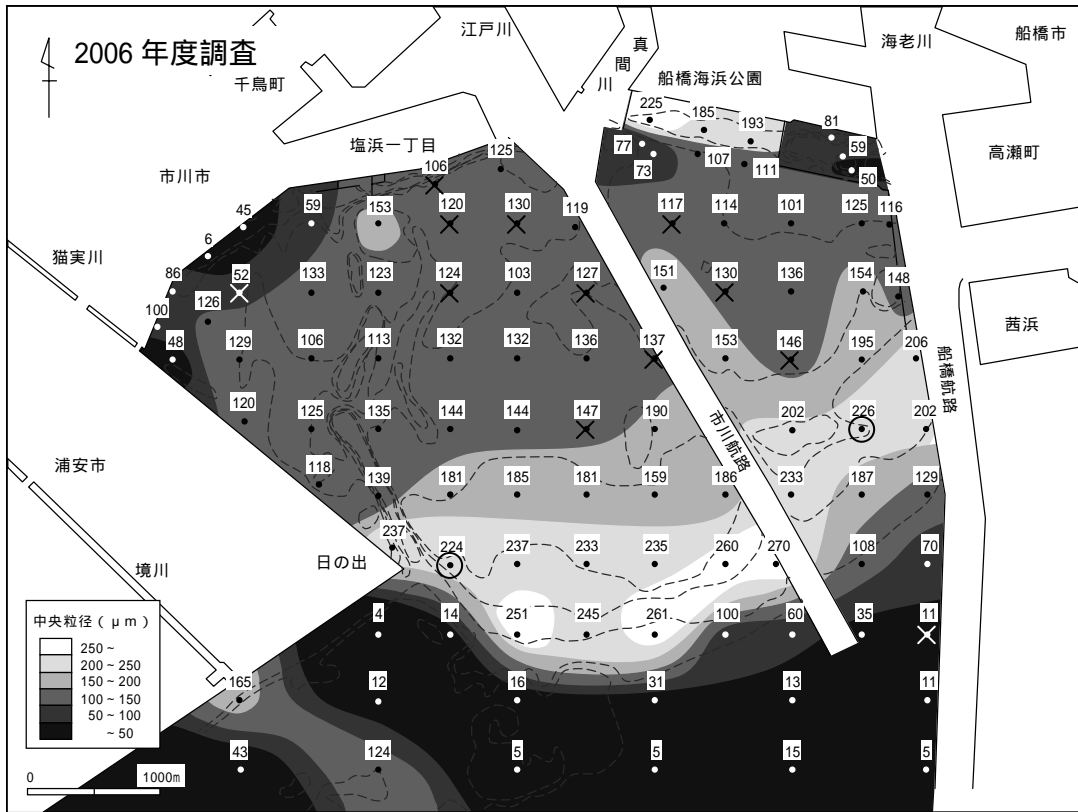
主な構成種は、猫実川河口周辺で変化がみられ、過去の調査でのウミゴマツボやニホンドロソコエビに変わり、本年度調査では、コケゴカイ、ミズヒキゴカイ等が高い構成比を示した。その他の浅海域および沖合域では、大きな変化は認められなかった。

主要種における個体数と環境条件の関係は、ほとんどの種で過去の調査と大きな変化は認められなかった。

(3) 干潟干出域カニ類等生息状況調査

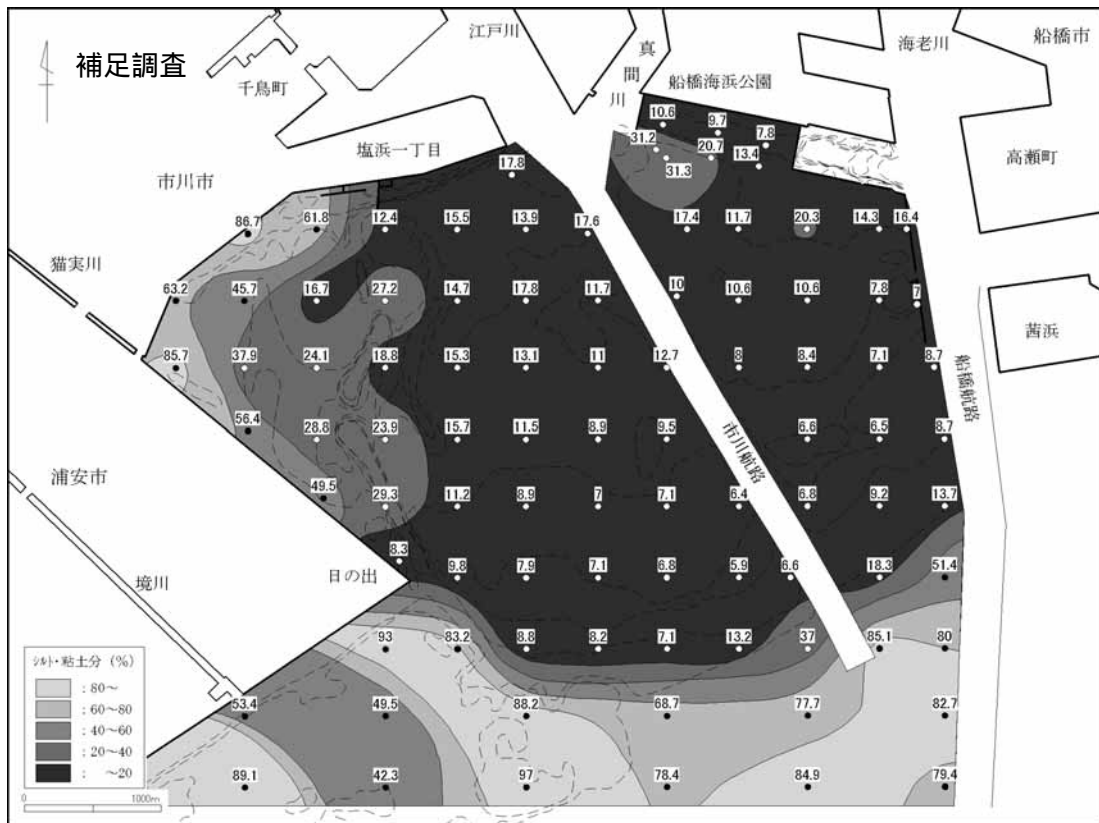
ヤマトオサガニ、アナジャコは底質が泥質である猫実川河口域で主に観察された。ケフサイソガニは底質が貝殻混じりの調査点で、コメツキガニ、スナモグリは比較的陸側の砂質の調査点でそれぞれ観察された。また、マメコブシガニは底質に関係なく広い範囲で観察された。

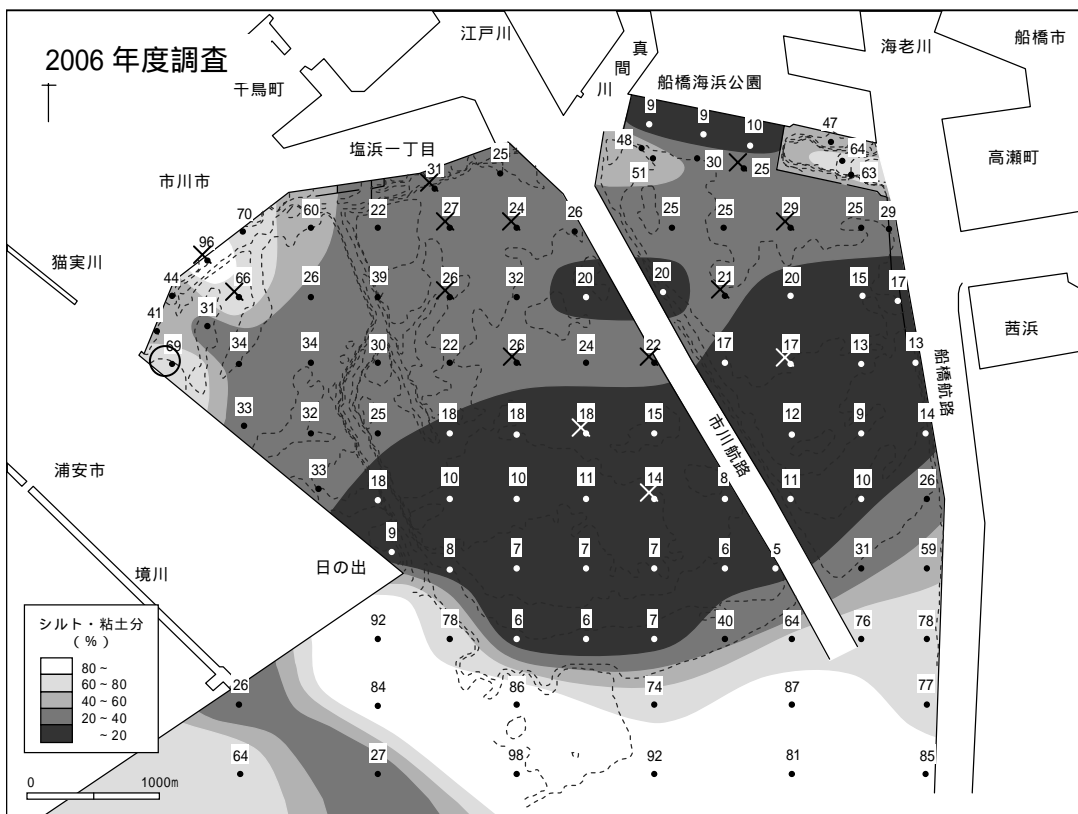
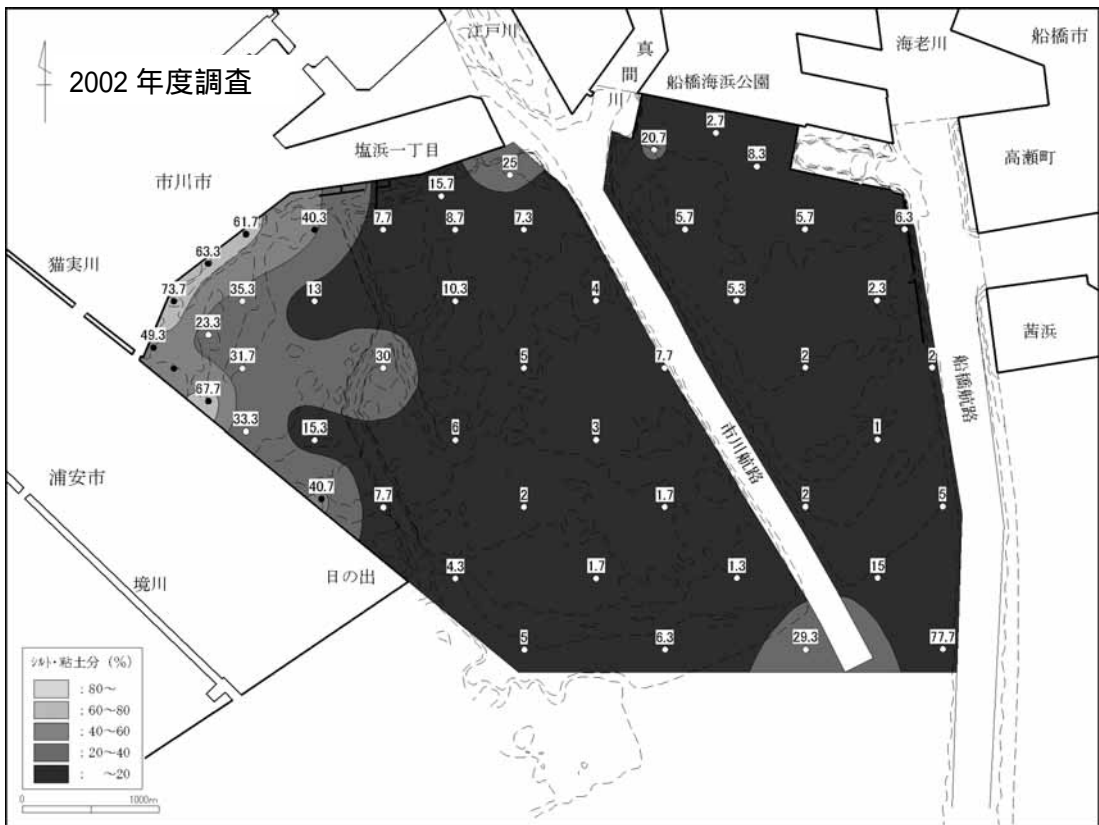
以上のことより、各種の出現傾向は既存文献等による生息場・生態特性に順じており、当海域においても底質に応じて生物種の棲み分けがなされていると考えられた。



○ : 本年度の三季平均値が過去調査の変動範囲を超えて高かった地点
 × : 本年度の三季平均値が過去調査の変動範囲を超えて低かった地点

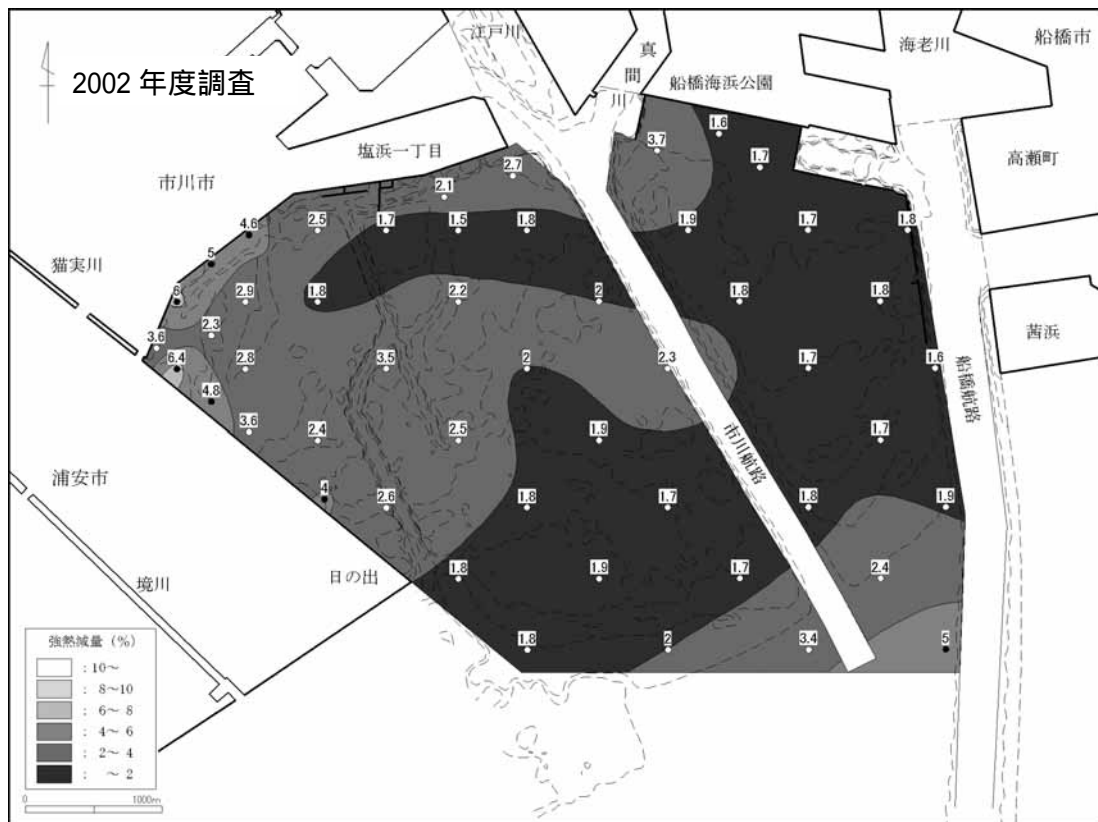
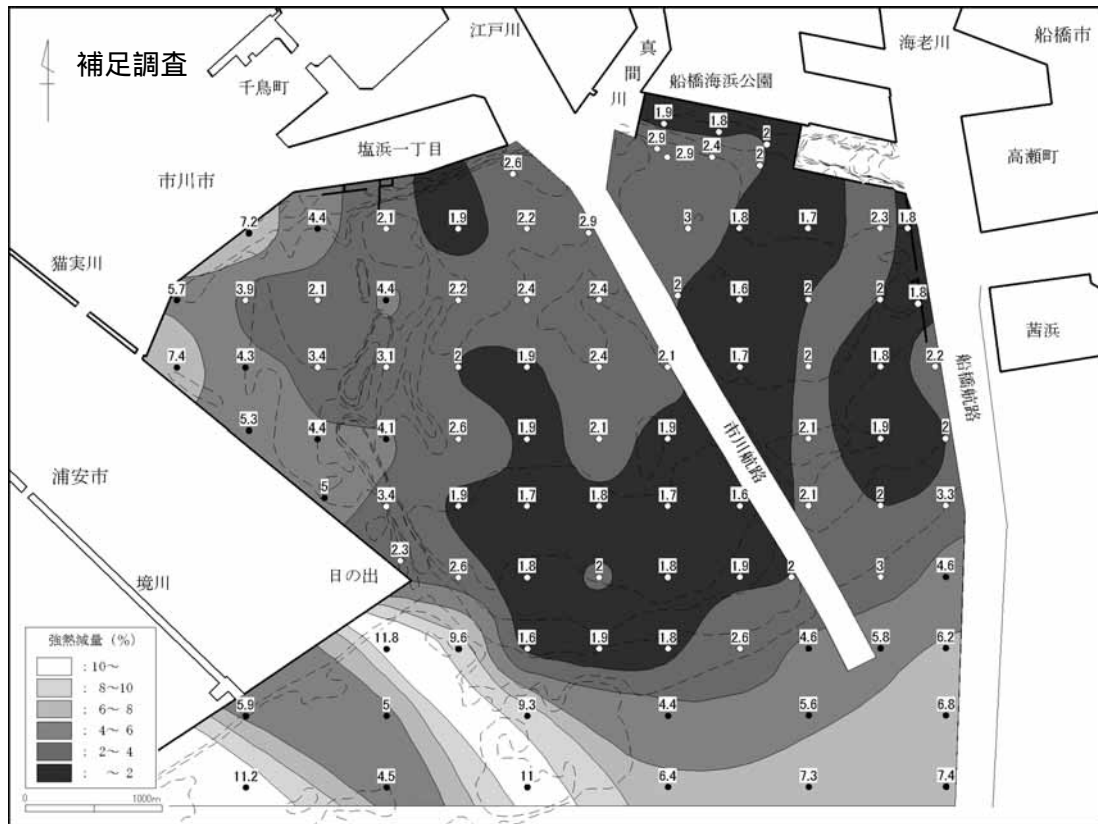
図 2 底質調査 (三季平均でみたシルト・粘土分の水平分布)





● : 本年度の三季平均値が過去調査の変動範囲を超えて低かった地点
 × : 本年度の三季平均値が過去調査の変動範囲を超えて高かった地点

図3 底質調査（三季平均でみた強熱減量の水平分布）



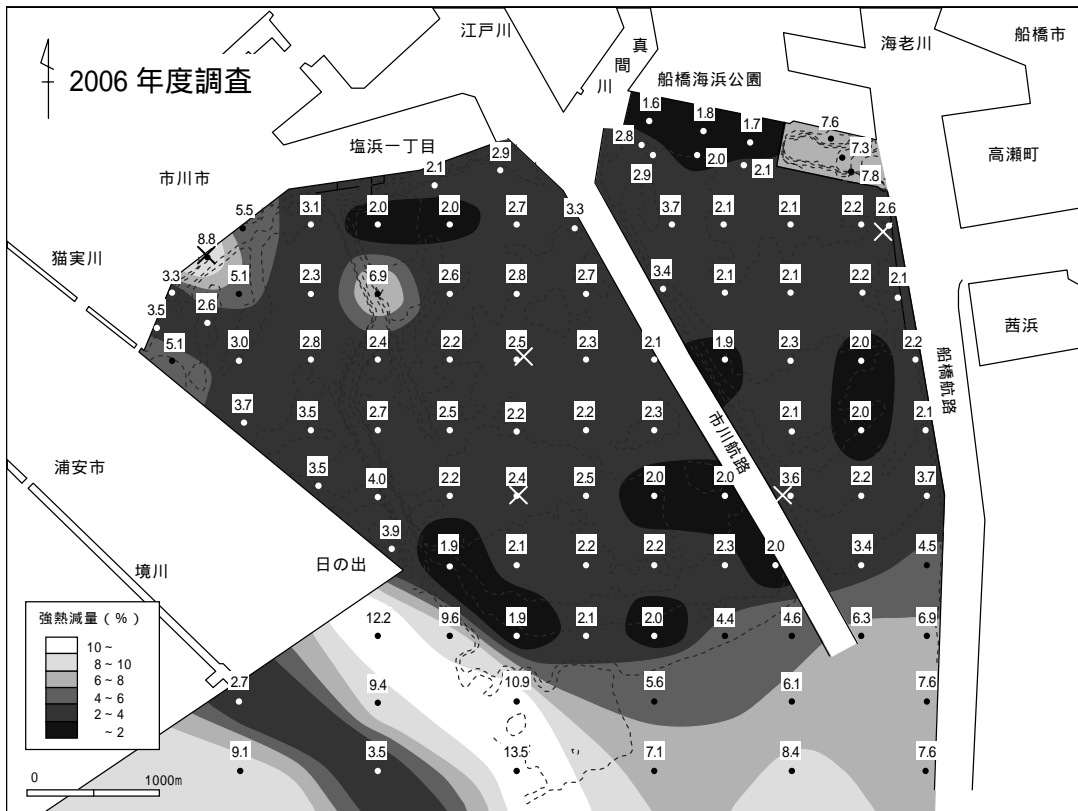
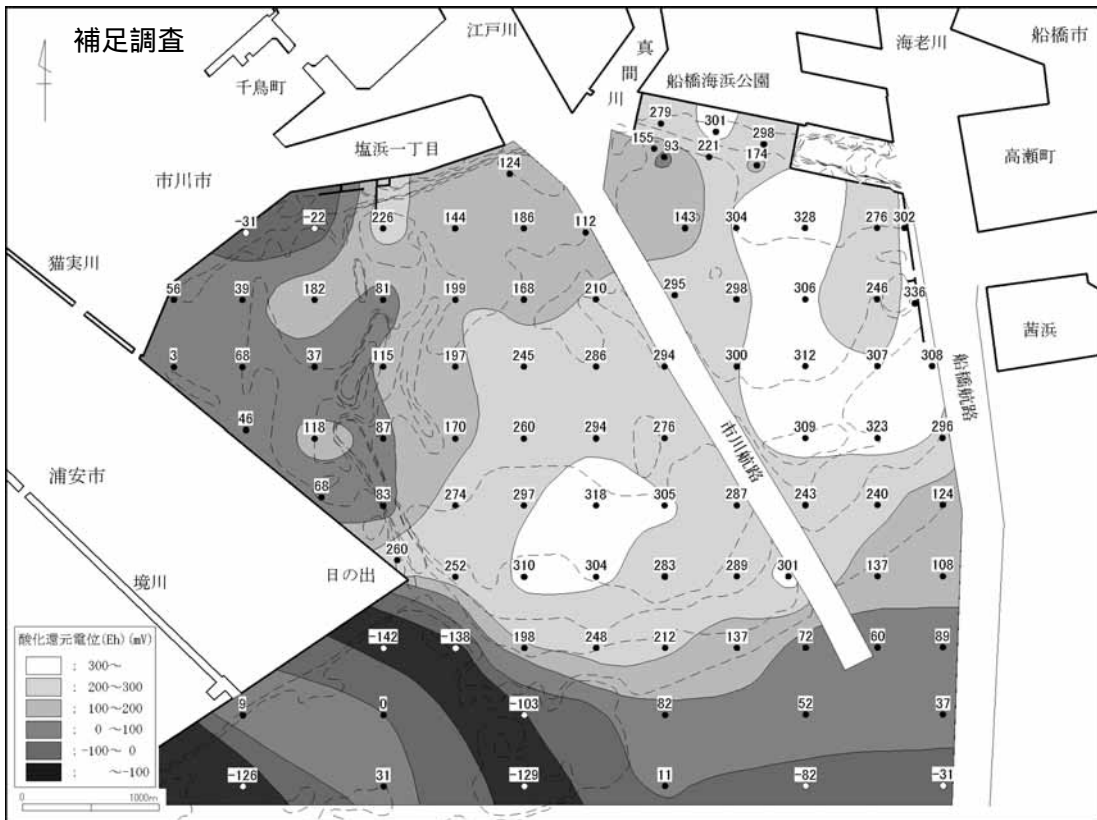
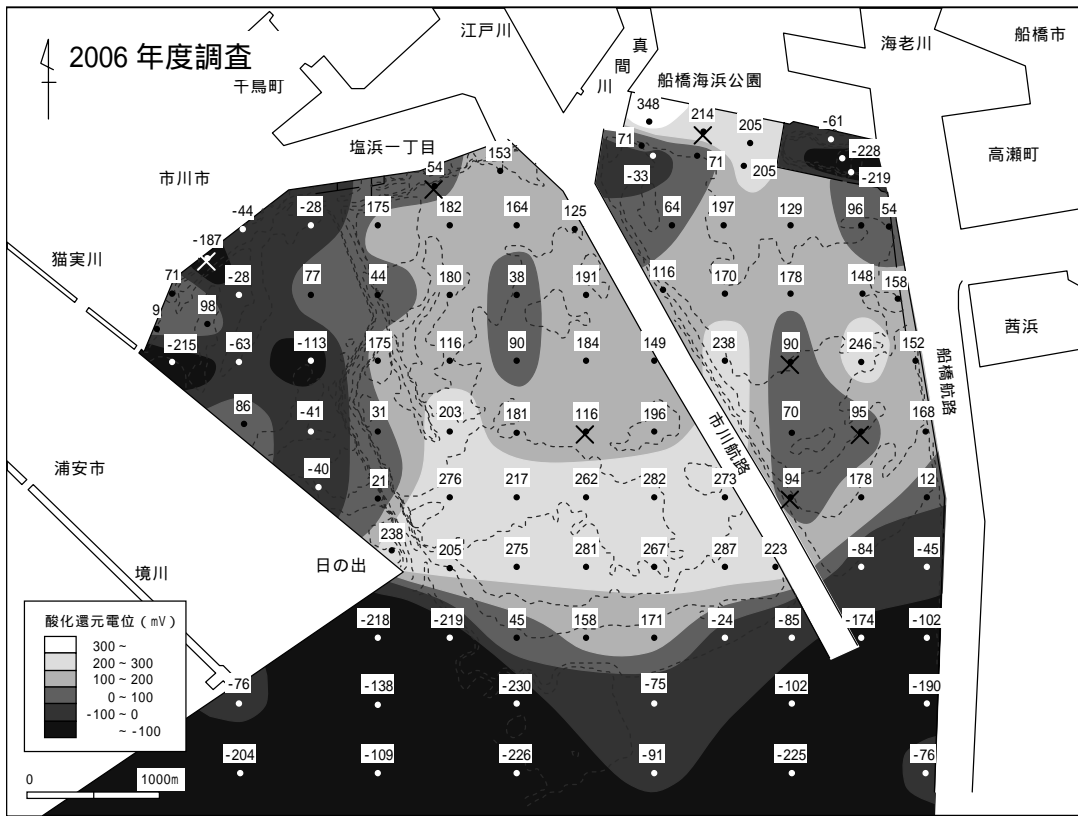
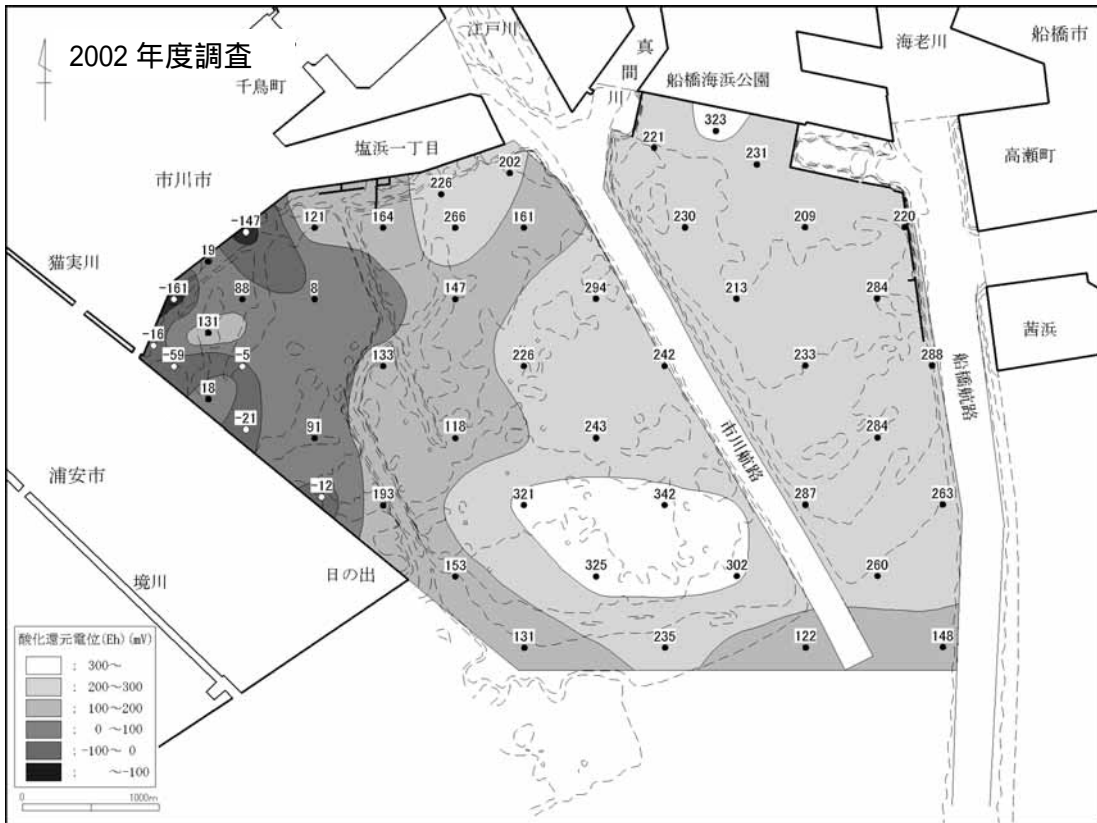


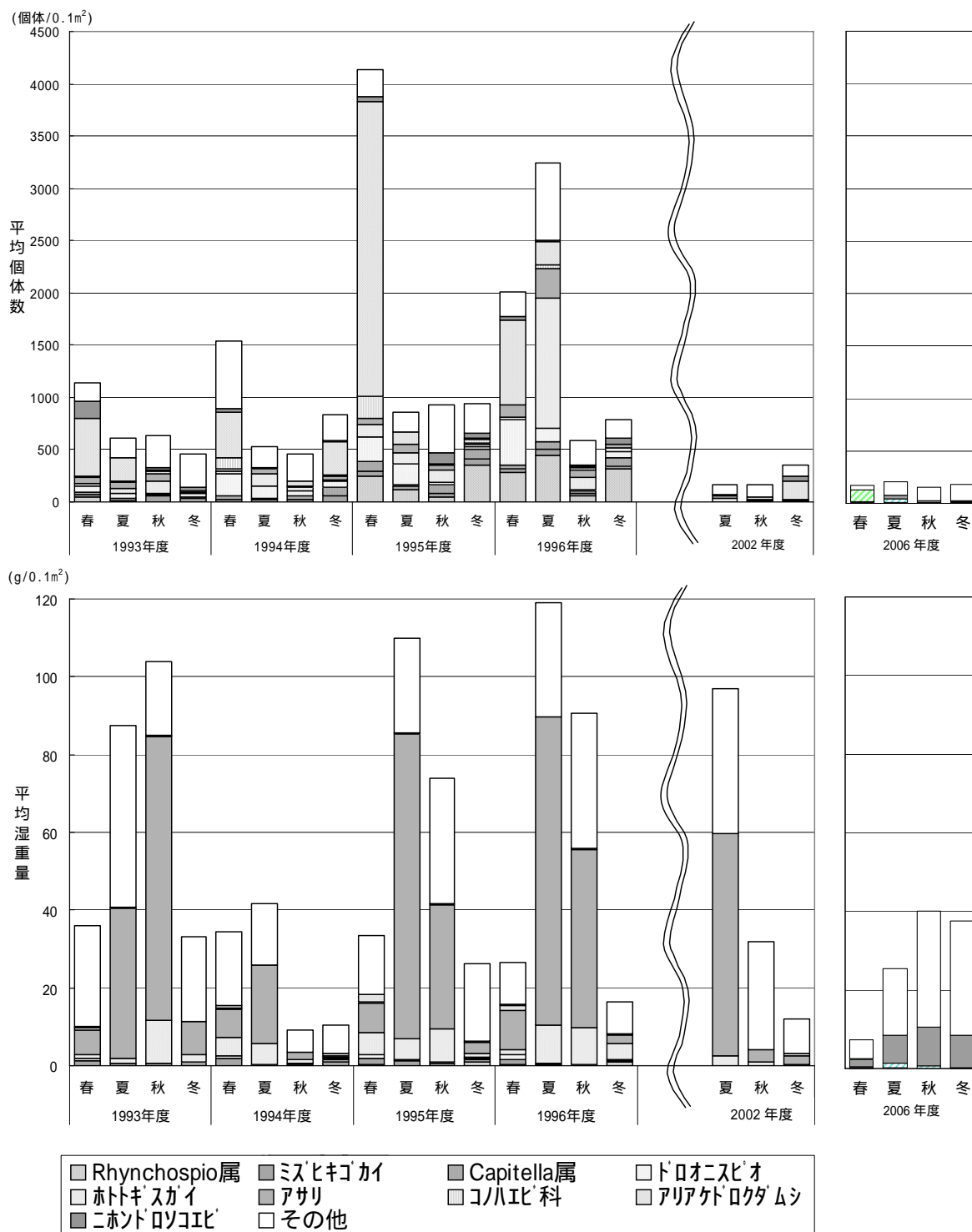
図4 底質調査（三季平均でみた酸化還元電位の水平分布）





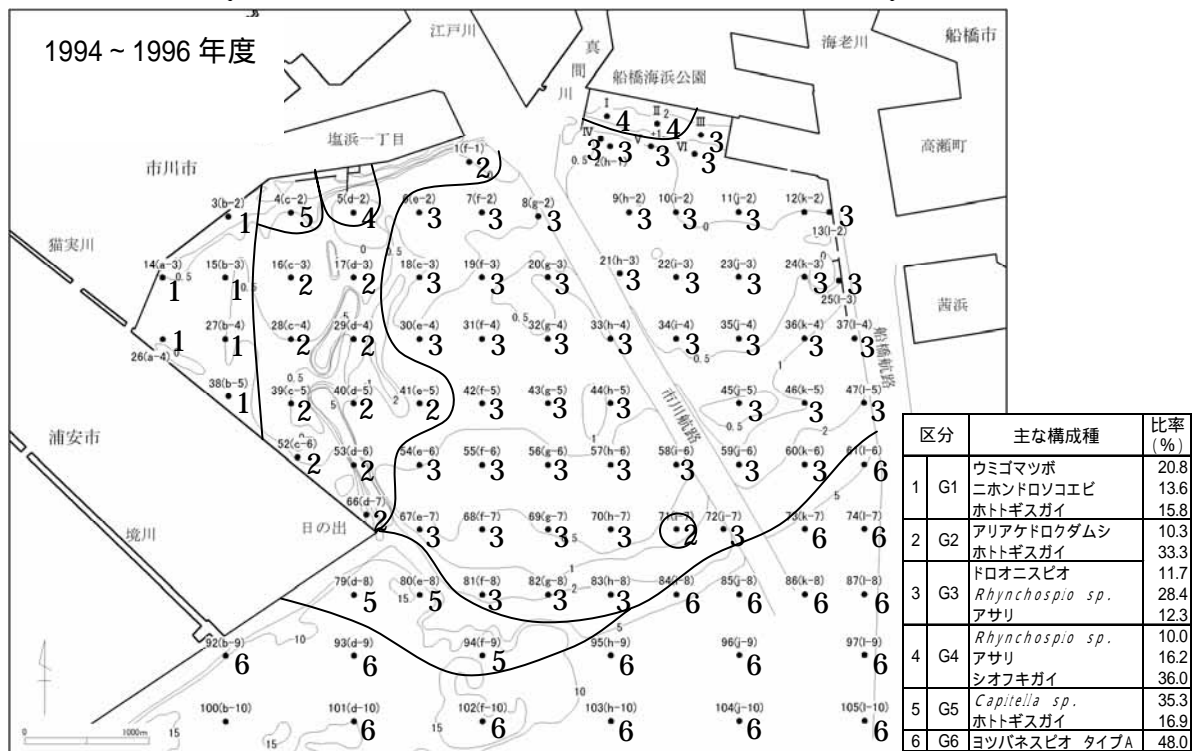
× : 本年度の値が過去調査の変動範囲を超えて低かった地点

図5 底生生物調査（底生生物の経年変化：個体数、湿重量）

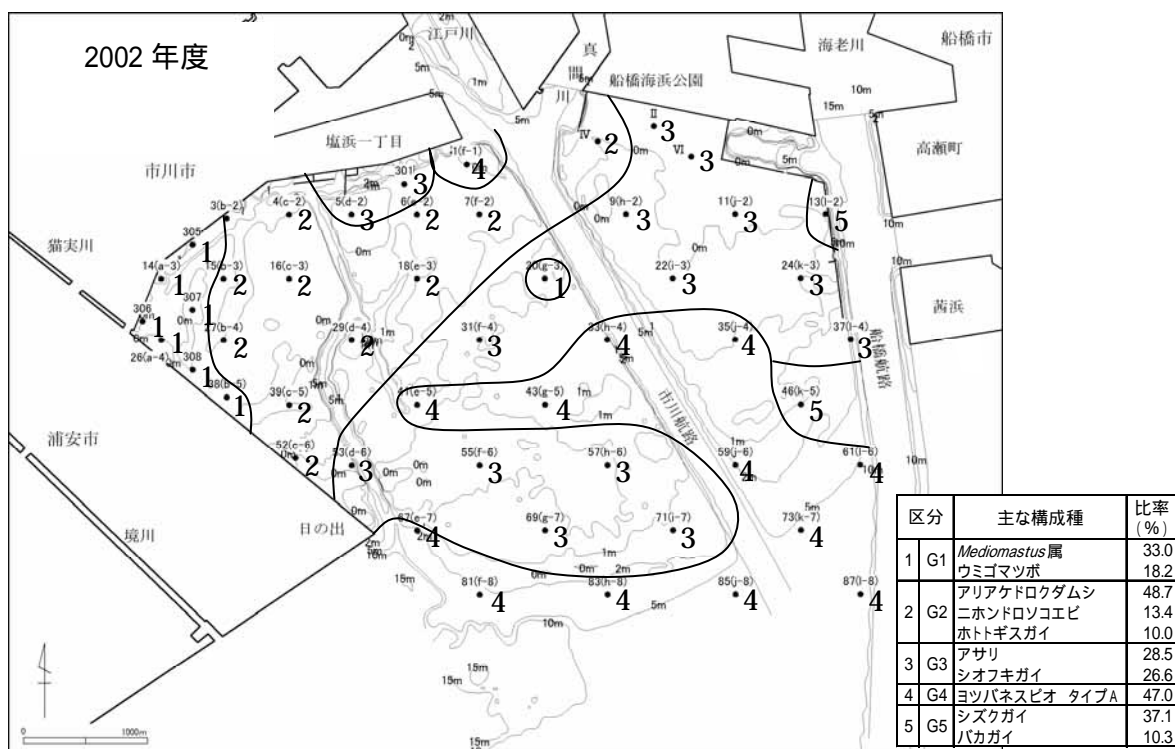


注) 補足調査、2002年度調査および本年度調査の調査地点のうち共通している調査地点(39地点)の平均個体数、平均湿重量を示す。

図6 底生生物（調査底生生物群集組成の海域区分：三季合計）



注) 数字は水深(A.P. [m])を示す。



注) 数字は水深(A.P. [m])を示す。

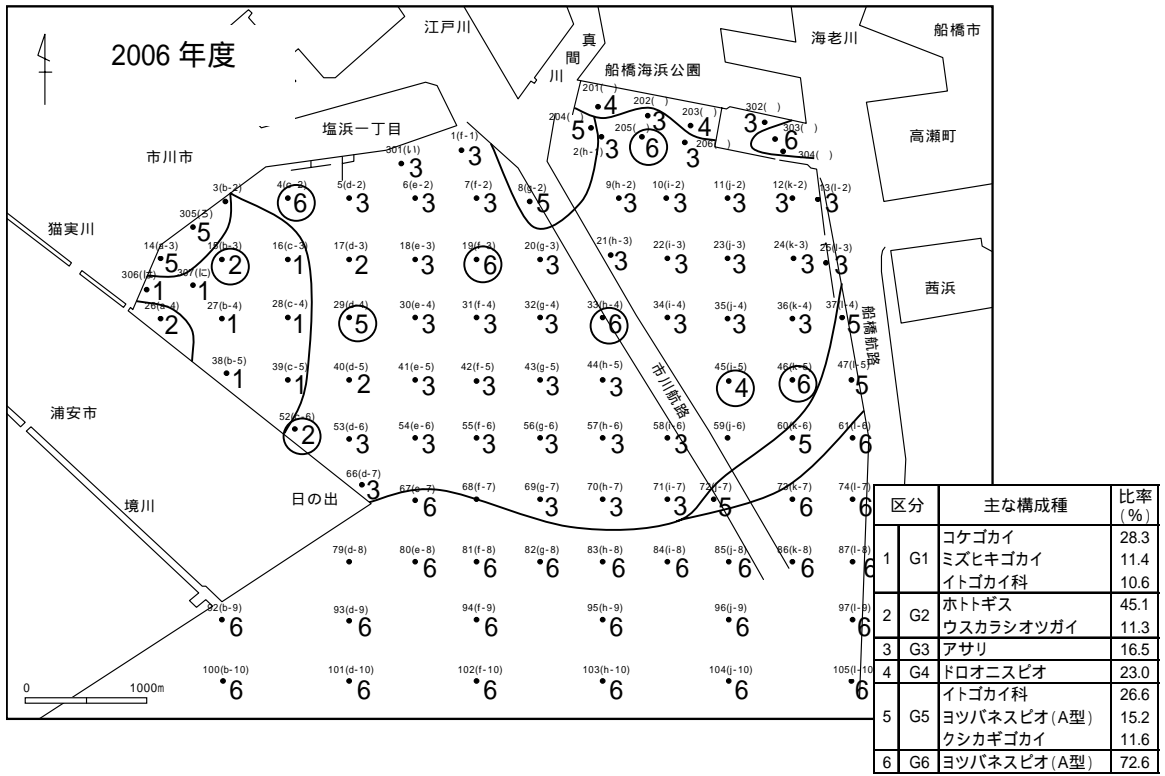
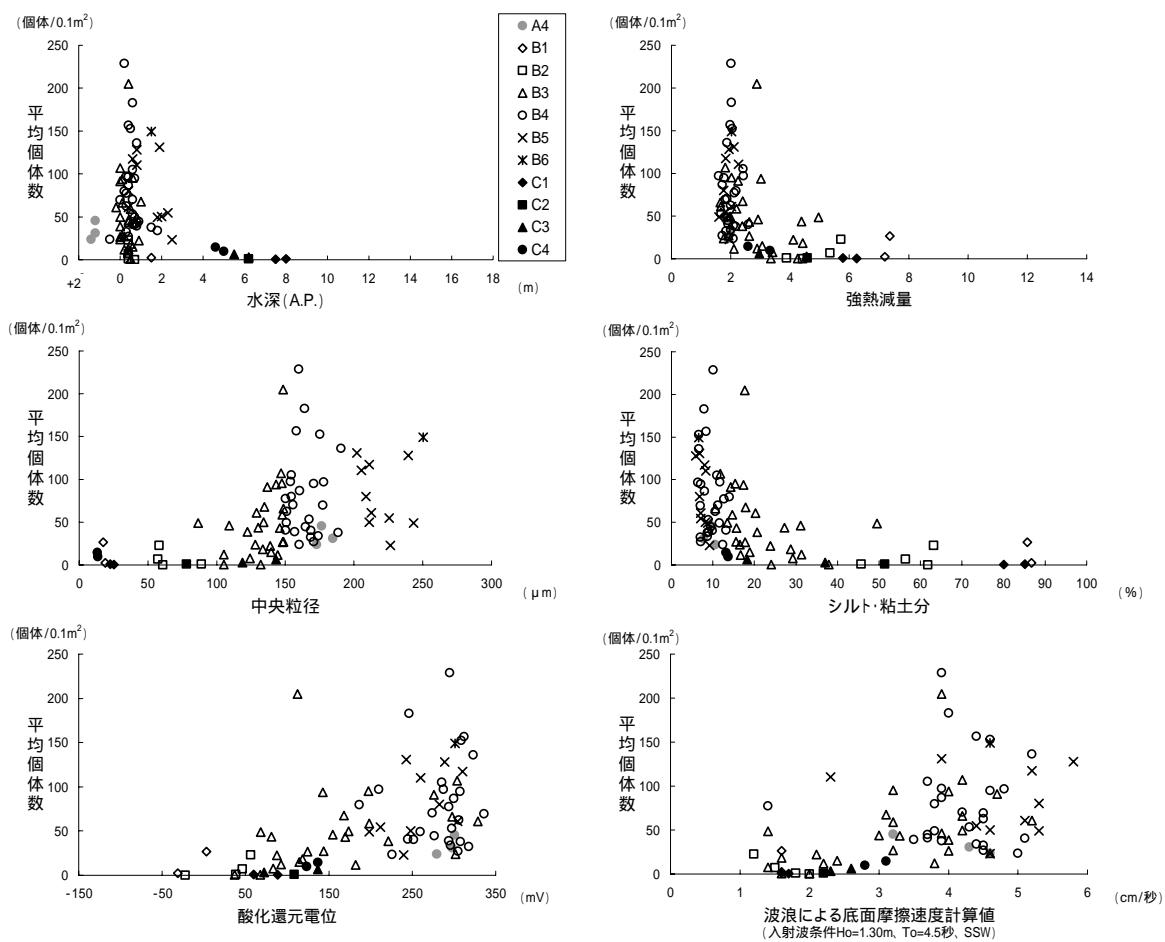
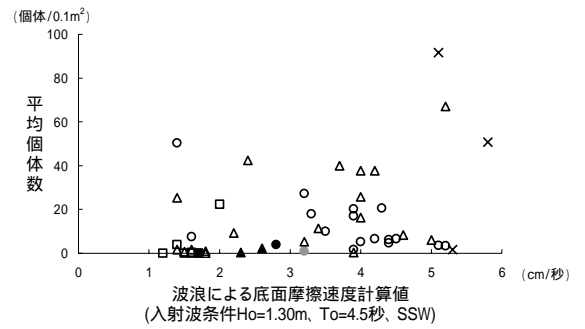
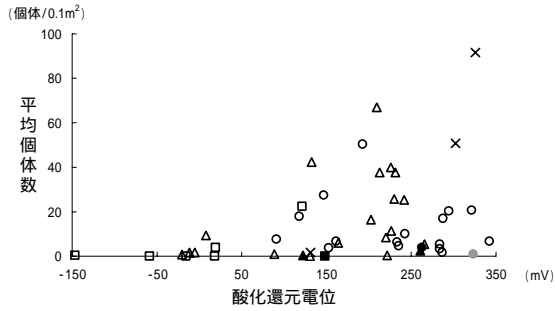
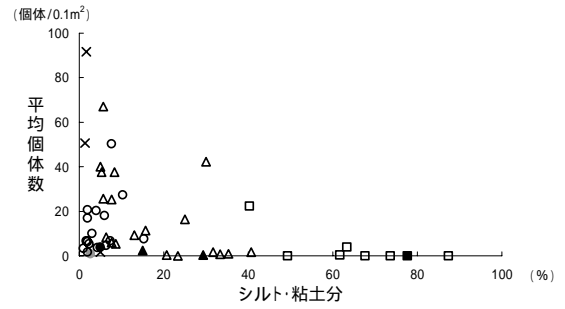
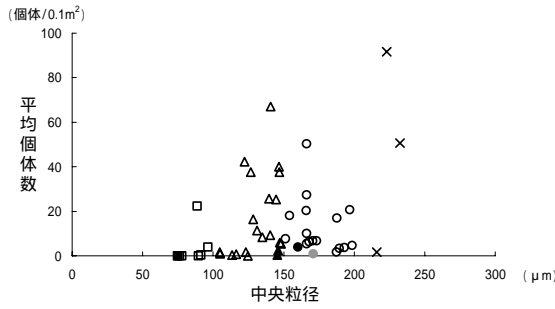
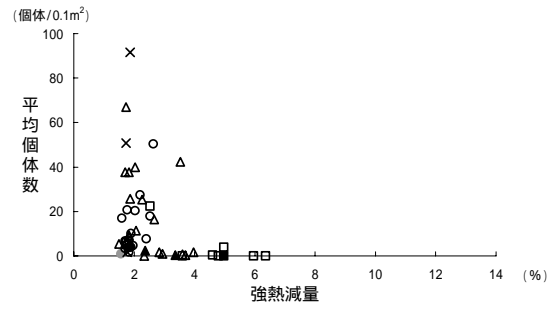
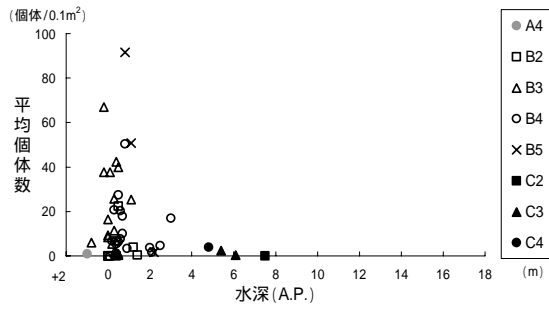


図7 個体数と環境条件の関係（あさりの例）
（補足調査）



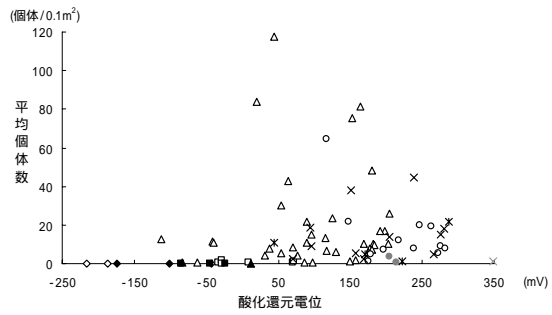
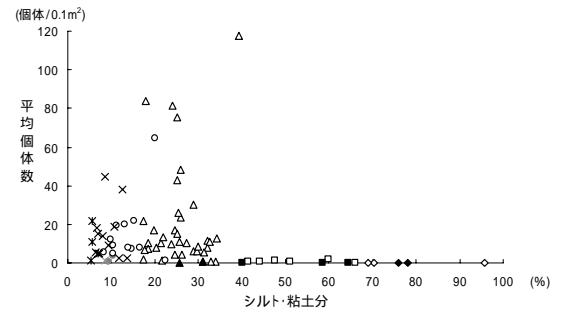
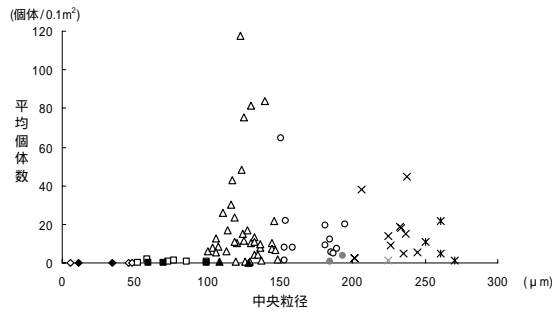
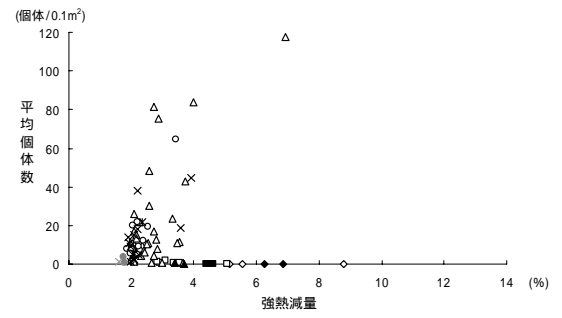
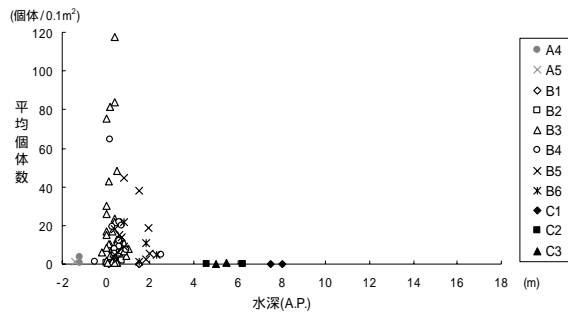
注1) 平均個体数および環境条件は1994～1996年度の三季平均を示す。
注2) 沖合の地点(地点No.79,80,92～105)は除外し、2002年度の調査範囲内の地点のデータを使用した。

(2002年度調査)



注1) 平均個体数および環境条件は2002年度の三季平均を示す。
 注2) 中央粒径75 μm以下の場合には75 μmとした。

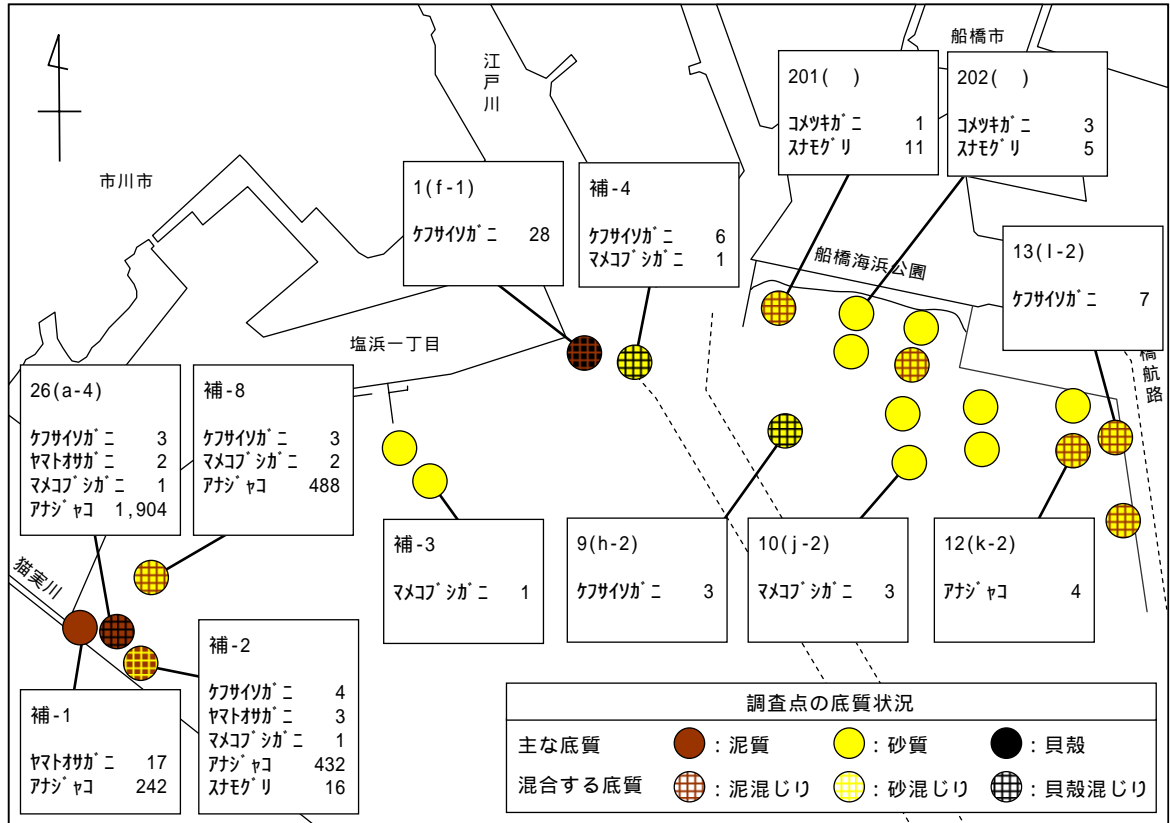
(2006年度調査)



注1) 平均個体数および環境条件は本年度調査の三季平均を示す。

注2) 沖合 (St.79,80,92 ~ 105) および航路跡地 (St.302 ~ 304) の地点は除外し、2002年度の調査範囲内の地点のデータを使用した。

図8 干潟干出域生息状況調査（調査地点の底質及び出現生物の状況）



注) 1. 出現種の数値は、コードラット (2.5m×2.5m) 内に出現した個体数を示す。
 2. 各調査点の底質状況は、色分け及び格子掛けにより図示される。
 (例) ●...貝殻混じり泥

平成 19 年度三番瀬自然環境調査事業の概要

平成 19 年 8 月 3 日
環境生活部自然保護課

1. 三番瀬海生生物現況調査（魚類着底状況）

(1) 目的

三番瀬海域における着底稚魚の生息状況を把握することを目的とする。

(2) 調査時期

4 月から 3 月までの毎月 1 回の調査を行う。

調査時間は、水深が最も浅くなる大潮最大干潮時（夜間）の 3 時間前から 1 時間後の間で行う。

(3) 調査内容

三番瀬海域の調査地点 11 点において、2 水深で押し網を用いて着底稚魚を採集し分析に供する。

分析は種の同定、個体数、体長、湿重量の計測を行う。

(4) 考察

着底稚魚の種類、個体数等について、平成 8 年から 9 年を中心に実施した「市川二期地区・京葉港二期地区計画に係る環境の現況調査」（以下「補足調査」という。）及び平成 14 年度に実施した調査時と比較するなど、中長期の変動を把握する。

2. 三番瀬鳥類個体数経年調査

(1) 目的

三番瀬を中心として浦安市、市川市、船橋市、習志野市及び千葉市の臨海部周辺に生息する鳥類の個体数を調査し、生息状況を把握することを目的とする。

(2) 調査時期

4 月から 3 月までの毎月 2 回（4 月は 1 回）の調査を行う。毎月前半と後半の大潮又はそれに近い日の各 1 回とする。

(3) 調査内容

浦安市から千葉市にかけての臨海部周辺の 14 箇所（舞浜、千鳥、日の出、塩浜、行徳鳥獣保護区、新浜鴨場、押切、江戸川放水路、江戸川放水路河口、ふなばし三番瀬海浜公園、谷津干潟、茜浜、豊砂、幕張の浜）を対象として、鳥類の種毎の個体数を調査する。

1) ラインセンサス法

調査地点の中に定められた特定ルート上を比較的ゆっくりとした一定の速度で歩き、望遠鏡又は双眼鏡を用いて出現した鳥類の種毎の個体数及び出現範囲を記録する。

2) 定点調査法

調査範囲を広く見渡すことのできる定点から望遠鏡又は双眼鏡を用いて、可視範囲内に出現した鳥類の種毎の個体数及び出現範囲を記録する。

(4) 考 察

種毎の個体数について、昭和62年から平成14年に行った経年調査と比較するなど、中長期の変動を把握する。また、他団体の調査結果を参照する。

3. 三番瀬鳥類行動別個体数調査

(1) 目 的

三番瀬に飛来する鳥類の種毎の個体数及び採餌状況等の行動を調査し、三番瀬のどの場所がどのように利用されているか把握することを目的とする。

(2) 調査時期

春、夏、冬の3季に各2日の調査を行う。調査日は干潟が大きく干出する大潮に合わせる。

(3) 調査内容

ふなばし三番瀬海浜公園、塩浜、日の出の調査地点5地点において、調査範囲を広く見渡すことのできる定点から、望遠鏡又は双眼鏡を用いて、可視範囲内に出現した鳥類の種毎の個体数及び採餌、休息、飛翔の主たる行動を日の出から日没まで1時間おきに調査し、鳥類の海上の位置等地図上に記録する。

(4) 考 察

種毎の個体数及び出現範囲等について、平成8年から9年を中心に実施した補足調査時と比較するなど、中長期の変動を把握する。

4. 三番瀬スズガモ及びカワウ食性調査

(1) 目 的

三番瀬及び周辺地域に飛来するスズガモ及びカワウの食性を把握することを目的とする。

(2) 調査時期

1) スズガモ消化管内容物調査

11月から3月にかけて調査を行う。

2) カワウ吐出物調査

2月から3月までの数日について調査を行う。

(3) 調査内容

1) スズガモ消化管内容物調査

ア 三番瀬及び周辺地域において漁業（刺し網）等により、誤って採取され、死亡した個体を採取位置確認のうえ入手する。

イ 入手した個体（検体）は雌雄及び成鳥・幼鳥の判定、体重、翼長、尾長を測定する。

ウ 検体を解剖し、食道・砂嚢（筋胃）の内容物を分析する。

エ 内容物の分析は種の同定、個体数、体長、質重量の計測等を可能な範囲で行う。

2) カワウ吐出物調査

ア 行徳湿地内のカワウ集団営巣地において、巣の下に吐き出された吐出物を巣毎に採集し分析に供する。

イ 吐出物の分析は魚種の同定、個体数、体長、質重量の計測等を可能な範囲で行う。

(4) 考 察

1) スズガモ消化管内容物調査

スズガモの食性が、平成8年から9年を中心に実施した補足調査及び平成14年度調査時と比較し考察する。

2) カワウ吐出物調査

分析結果から、カワウの食性（魚種、体長等）について考察する。

平成 20 年度以降の三番瀬自然環境調査事業の概要

平成 19 年 8 月 3 日
環境生活部自然保護課

1 平成 20 年度以降の三番瀬自然環境調査について

平成 20 年度以降の三番瀬自然環境調査については、平成 18 年 12 月 25 日付けの三番瀬再生会議からの意見に基づき下記のとおり実施する予定。

- (1) 深浅測量
- (2) 水環境自動モニタリング
- (3) 中層大型底生生物調査
- (4) 藻類調査
- (5) 付着生物調査
- (6) 空中写真撮影
- (7) 総合解析

2 総合解析について

(1) 平成 18 年度以降の調査における解析

平成 18 年度以降の三番瀬自然環境調査については、平成 15 年度の総合解析と同様の解析を行うこととしている。

(2) 総合解析

平成 22 年度に予定している総合解析(委託予定)においては、平成 18 年度から平成 22 年度の三番瀬自然環境調査及びその他の機関が実施した調査などをもとに、三番瀬全体の自然環境の変動を把握するために必要な解析を行う。

例) 流向・流速と生物の関係、水深や底質と生物の関係など各調査を関連付けた解析など

なお、総合解析の解析手法・内容についての検討やその検討体制について、評価委員会で検討していただきたい。

また、最終的には、この総合解析の結果を基に、評価委員会において、三番瀬の自然環境の変動について評価を行っていただきたい。

三番瀬評価委員会(平成18年9月13日)資料

参考資料

総合企画部企画調整課

県が三番瀬及び周辺海域において実施中又は実施を予定している環境調査等について(平成18～22年度)

1 地形

は自然環境調査事業

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法	
						器具	方法
深浅測量	自然保護課	三番瀬の自然環境の現状の把握等	水深	1回/5年	三番瀬および周辺海域	音響探査機	測線間隔:50m 音響探査機を用いて測量 浅い海域は汀線測量
〃	河川環境課	市川市塩浜護岸の張り出しによる洗掘等の周辺地形の物理的変化の把握	海底地形・水深	秋季・春季 2回/年	塩浜護岸工事区間内20m間隔に、沖合い100mまで	〃	船上から音響測深機により測量、浅深部は汀線測量
〃	港湾課	市川航路・泊地の維持管理のための水深の把握	水深	2回/年(浚渫後・台風時期終了後)	市川航路・泊地	〃	測線間隔:20m

2 波浪・流況

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法	
						器具	方法
波浪・流況	河川環境課	地形変化に対する外力、市川市塩浜護岸張り出しによる流況の変化を把握	波高・波向・流向・流速	秋季・春季 2回/年	塩浜護岸100m工事区間前面に1箇所	超音波波高計、電磁流速計	30日間の定点連続観測

3 底質

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法	
						器具	方法
底質	自然保護課	三番瀬の自然環境の現状の把握等	酸化還元電位、粒度組成、強熱減量等	四季 (5年に1回)	三番瀬全域、補足調査と同程度(100地点程度)	スミス・マッキンタイヤ型採泥器	底泥表層を1回/1調査地点採取
〃	河川環境課	市川市塩浜護岸の張り出しによる海底土粒径変化の把握	底土の粒径	秋季・春季 2回/年	塩浜護岸100m工事区間、深浅測量の中央1測線で10mピッチ	〃	〃
〃	港湾課	市川航路・泊地の浚渫土砂を浅海漁場総合整備事業の土砂投入工事に使用するため必要な調査	37項目(含むがイサシ・強熱減量)	浚渫予定箇所で事前に実施(1回/年)	市川航路・泊地	アクリルコアサンプラー	潜水土により、海底表面から1m以上の底泥を採取し、表層・表層下1mを採取。
〃	〃	海域小委員会での調査要望により、浚渫土砂の現状を把握するため	粒度分布	〃	〃	〃	〃

4 水質（海域）

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法	
						器具	方法
水質	水質保全課	公共用水域の水質汚濁状況の常時監視	別表1のとおり	1回/月	東京湾2（江戸川河口）、東京湾3（京葉港沿岸）	北原式採水器、バンドーン型採水器	表層、底層を器具により採水
〃	自然保護課	三番瀬の自然環境の現状の把握等	水温、塩分、pH、溶存酸素、COD、全窒素、全リン、クロロフィルa等	四季（5年に1回）	三番瀬及び周辺海域、10地点程度	バンドーン型採水器	バンドーン型採水器で各地点で採水
〃	環境研究センター	東京湾内湾の表層水質を面的に連続測定し、赤潮発生状況等を把握	水温、塩分、濁度、pH、クロロフィルa等	月に1～2回（人工衛星の運行と連動、東京都、横浜市と同時調査）	東京湾内湾部を航走しながら連続測定	航走式水質連続測定装置	船底のポンプから連続取水して測定する。
〃	水産総合研究センター	ノリ養殖管理に資するための調査	水温、塩分、pH、溶存酸素、COD、全窒素、全リン、クロロフィルa等	1回/月	東京湾内、28点	他項目水質計、自動栄養塩測定器、顕微鏡	表面水はポリバケツ、表層水以外はポンプにより採水

5 青潮関係（貧酸素水塊関係等）

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法	
						器具	方法
水質	環境研究センター	青潮発生状況等の把握	海色、魚類等斃死状況、1mの深度ごとの水温、塩分、密度、溶存酸素量、酸化還元電位、等の測定	青潮発生時	青潮発生海域	水質調査船「きよすみ」搭載の多成分水質測定装置	現地観測（目視も含む）
〃	環境研究センター	赤潮及び貧酸素水塊の分布を鉛直的に把握	海色、表層クロロフィルa、プランクトン優占種の判定、1mの深度ごとの水温、塩分、密度、溶存酸素量、酸化還元電位、濁度、光量子等の測定、	月に1～2回（人工衛星の運行と連動、東京都、横浜市と同時調査）	東京湾内湾部8地点（幕張沖、湊くぼ地、東京灯標、川崎扇島沖も含む）	〃	クロロフィルaは採水して実験室、それ以外は現地観測
〃	水産総合研究センター	東京湾における底引き網漁業等の漁業のために貧酸素水塊を調査	水温、塩分、pH、溶存酸素、クロロフィルa、プランクトン等	4月～11月の期間に2回/月	東京内湾、18点	他項目水質計、顕微鏡	他項目水質計を海に入れ、直接水質を測定する。表層海水を採水し、実験室に持ち帰り、プランクトンを検鏡する。

6 底生生物・魚類等

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法		
						器具	方法	
底生生物	自然保護課	三番瀬の自然環境の現状の把握等	種の同定、個体数、湿重量、貝類の殻長等	四季 (5年に1回)	三番瀬全域、補足調査と同程度 (100地点程度)	スミス・マッキンタイヤ型採泥器	底泥表層を2回/1調査地点採取採泥後、1mmの篩に残った資料を採取	
"	環境政策課	県民等の参加による底生生物調査	種の同定、個体数、湿重量、貝類の殻長等	年3回	浦安市日の出干出域、15地点程度	コドラート、篩	コドラートで底泥を採泥。篩分けにより残った試料を採取。	
"	河川環境課	市川市塩浜護岸の築造による周辺生物の変化と石積み護岸への再定着状況を把握	生息状況の観察、種の同定、個体数、湿重量、貝類の殻長等	四季 4回/年	塩浜護岸100m工事区間の中央測線において、10m間隔の観察及び採取分析3箇所	スミス・マッキンタイヤ採泥器 50cm×50cmの方形枠	ライトランセクト法 方形枠内の観察及びサンプル採取	
アサリ	アサリ浮遊幼生・着底稚貝	水産総合研究センター アサリ幼生および稚貝の出現実態の把握	アサリ幼生の密度 アサリ稚貝の密度	毎月 (H18のみ)	幼生調査3点 稚貝調査10点	幼生：水中ポンプとプランクトンネット 稚貝：コアサンプラー	幼生：船上から100～200Lの海水を汲み上げてネットでろ過採集 稚貝：10回/1地点、0.5mmのふるいの残った試料を分析	
	アサリ資源分布	" 関係漁協	アサリ稚貝～成貝資源の出現把握	アサリの密度	6回/年 偶数月	34点	2mmの網を張った大まき漁具	漁具を1m曳いて、残ったもののうち1kgを分取し、それに含まれるアサリを分析
	アサリ肥満度	" 関係漁協	アサリ肥満度の季節変化の把握	アサリ肥満度	毎月	3点	大まき漁具	成貝20個体を採取し、貝殻と軟体部重量の比を計算
中層大型底生生物	自然保護課	三番瀬の自然環境の現状の把握等	生息孔の分布等	1回/5年	三番瀬、40地点程度		基点から岸方向に40mのライン沿いの海底をビデオ撮影し、解析	
魚類	自然保護課	"	種の同定、個体数、湿重量、体長測定等	毎月 (5年に1回)	三番瀬等、15地点程度	押し網(口径：縦30cm×横150cm×目幅2mm)	上層(水深10～20cm)、下層(50～70cm)の2水深で汀線と平行に約100mを2名で押す	
"	水産総合研究センター	移植アマモ株による藻場に出現する生物群の種類などを調べる。	種の同定、湿重量、個体数等	1回/年(18年度のみ)	三番瀬、1地点	かぶせ網(採集面積1m×2m、目合い12mm)	かぶせ網を造成藻場に被せて、網内の生物を採集する。	
付着生物	自然保護課	三番瀬の自然環境の現状の把握等	種の同定、個体数、湿重量、空間分布等	四季 (5年に1回)	三番瀬およびその周辺		コドラート法、目視観察(ベルトランセクト)	

7 鳥類

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法	
						器具	方法
シギ・チドリ類 採餌状況	自然保護課	三番瀬の自然環境の現状の把握等	種の同定、個体数等	夏、冬 (5年に1回)	三番瀬、船橋海浜公園、行徳湿地	双眼鏡・望遠鏡	定点調査・ラインセンサス法
スズガモ等の 食性	"	"	食性調査等	11月～3月 (5年に1回)	三番瀬およびその周辺海上		溺死したスズガモの死体を解体
経年調査	"	"	種の同定、個体数等	毎月 (5年に1回)	谷津干潟、船橋海浜公園、江戸川放水路、塩浜、日の出等の15地点	双眼鏡・望遠鏡	定点調査・ラインセンサス法

8 藻類等

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法	
						器具	方法
藻類	自然保護課	三番瀬の自然環境の現状の把握等	種の同定等	1回/5年	三番瀬、20地点程度		ベルトトランセクト法(距離50m×片側幅2m)の藻類を記録
アオサ	水産総合研究センター	アオサ分布量の把握	アオサ重量密度	6回/年 (H18のみ)	三番瀬、19地点	手網	手網を一定距離引いて採取したアオサの重量を計測

9 景観

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法	
						器具	方法
景観	河川環境課	市川市塩浜護岸の周辺域との景観の調和、ごみ等の集積状況の把握	景観	施工後1回	塩浜護岸施工範囲		陸上及び海上から景観観察

三番瀬評価委員会(平成18年9月13日)資料

総合企画部企画調整課

県が三番瀬流域において実施中又は実施を予定している環境調査等について(平成18~22年度)

1 地盤高、地下水位

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法	
						器具	方法
精密水準測量	水質保全課	地盤沈下の監視	一級水準点変動量	1回/年	浦安市:17地点、市川市:54地点、船橋市:34地点、習志野市:15地点	一級水準点・測量儀・標尺	一級水準測量
地下水位	"	地下水位変動の監視	地下水位・地層収縮量	連続観測	浦安市:3地点、市川市:7地点、船橋市:9地点、習志野市:3地点	地下水位計・地盤沈下計	チャート連続記録
"	河川環境課	海老川流域の地下水動向を把握	地下水位	連続	7カ所(日大グラウンド、葉園台高校、県水道局船橋北営業所、市立前原中学校、同旭中学校、同高根小学校、県水道局船橋給水場)	圧力式水位計	井戸水の水压を測定し、それを水位に換算する。
"	"	市川市塩浜護岸による地下水の遮水性、連続性を把握	"	施工前後	2丁目1箇所、3丁目1箇所	地下水位観測孔	24時間連続観測

2 河川流量

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法	
						器具	方法
河川流量	河川環境課	平常時の河川流量を把握	河川流量	1回/月	4カ所(海老川本川(八栄橋)、前原川(相之橋)、長津川(前貝塚南公園付近)、飯山満川(飯山満中学付近))	流速計(回転式等)	流速と断面積を実測し、両者を乗ずる。

3 行徳湿地

調査対象	担当課	調査目的	測定項目	頻度	調査範囲・地点数	方法	
						器具	方法
底質	自然保護課	行徳湿地内へ淡水導入量を増加させた場合の影響を調査し、淡水導入増量の妥当性を検討	酸化還元電位、粒度組成、強熱減量等	H18で終了	行徳湿地内2地点(1地点毎3検体)	シャベル等	増量前及び増量中において、表層を1日1回、計6検体を採泥する。
水質	"	"	水温、塩分、pH、溶存酸素、COD、全窒素、全リン、クロロフィルa等	"	行徳湿地内及び想定水源の8箇所	バケツ等	増量前及び増量中において、表層水を1日1回で2日間、計16検体採取する。
水質	"	行徳湿地の環境悪化防止に資するため、継続的に調査	水温、塩分、pH、COD、亜硝酸、リン等	毎月2回(毎年)	行徳湿地内10箇所程度	バケツ等	バケツ等により検体を採水する。
鳥類	"	"	種の同定、個体数	"	行徳湿地内	双眼鏡、望遠鏡	定点調査・ロードサイドセンサス

県以外の機関で実施した調査例(順不同)

調査名	調査機関	目的等
江戸川洪水時調査	国土交通省(江戸川工事事務所)	江戸川放水路からの出水による三番瀬の環境変化の把握のため、江戸川放水路並びに河口域の環境変化と土砂供給作用について調査。
三番瀬市民生物調査	市川市他	三番瀬の浅海域や船橋市に隣接した東浜の人工干潟、三番瀬に接し東京湾の入り江となっている江戸川放水路河口域の干潟、さらに行徳近郊緑地鳥獣保護区の干潟などに生育している底生生物の状況を中心に、海の生物の現況を把握する基礎的調査。
三番瀬市民調査	三番瀬市民調査の会	市川市と浦安市の境界にあたる猫実川河口部の泥干潟における、アナジャコ、スナモグリ等の巣穴調査及びカキ礁生物の調査。
自然環境保全基礎調査 (生物多様性調査)	環境省	環境要因と干潟・浅海域生態系機能との因果関係の評価手法開発のための調査であり、猫実川河口域のカキ礁をモデルの1つとして利用した。